

JBA 総発 26007 号
2014 年 4 月 1 日

加盟団体 理事長 各位

公益財団法人日本バスケットボール協会
専務理事 星 芳樹
[公印省略]

ミニバスケットボール競技規則の一部改定について(報告)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ミニバスケットボール競技規則の一部改定につきまして先般の理事会において承認されましたのでご報告いたします。

国内における施行は、2014 年 4 月 1 日からとなりますので、各都道府県におかれましては、速やかに対応くださいますようお願い申し上げます。

記

ミニバスケットボール競技規則のうち、下記条文の改定を行う。

* 施行は、2014 年 4 月 1 日からとする。

- 第 12 条 30 秒オペレーター
- 第 37 条 30 秒ルール
- 第 40 条 スロー・インの方法

* 添付資料「ミニバスケットボール競技規則の一部改正」、「ミニバスケットボール競技規則(30 秒ルール)改定対比」

* ルールブックについては、在庫分は差し込みにて対応し、増刷分より改定内容を反映したルールブックを制作、販売することとする。

以上

ミニバスケットボール競技規則の一部改正

第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ

第12条 30秒オペレーター

30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にショットをしなかったときには合図をする。

30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。

30秒は次の時に終わる（30秒をリセットする）

- (1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき（ショットされたボールがリングに触れたとき）
- (2) 相手チームがボールを保持したとき
- (3) ボールを保持しているチームの相手チームのファウルやヴァイオリション（アウト・オブ・バウンズを除く）があったとき
- (4) ボールを保持しているチームの相手チームに原因のある理由でゲームが止まったとき
- (5) 審判がどちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたとき

30秒が継続される時（30秒をリセットしない）

次のことが起こった結果、それまでボールを保持していたチームに引き続きスロー・インのボールが与えられるときは、30秒を止めるがリセットしない

- (1) ボールがアウト・オブ・バウンズとなったとき
- (2) ボールを保持しているチームのプレイヤーの負傷などで審判がゲームを止めたとき
- (3) ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき
- (4) ダブルファウルが宣せられたとき

黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。

第6章 プレイの規定

第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にショットをしなければならない。

30秒たってもショットをしないときはヴァイオリションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

―第37条 ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき―

- (3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオリションとなる。

30秒のヴァイオリションを宣したときは、ボールがあったところにもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

第7章 規則違反と罰則

第40条

ファウル、ヴァイオリション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、スロー・インするプレイヤーが審判に指示された位置にいる場合は、トスまたはバウンス・パスで投げ与えてもよい。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内にボールを投げなければならない。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上方またはそれをこえてからのどの部分も出してはならない。
- (4) スロー・インのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1mを超えて移動すること。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。ただし、ライン沿いに移動する幅が1mを超えた場合は、ヴァイオリションとなる。

これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールが与えられる。しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。

相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。

ミニバスケットボール競技規則（30秒ルール）改定対比

平成 26 年 2 月 11 日

現 行 条 文	改 定 条 文
<p>第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ</p> <p>第12条 30秒オペレーター</p> <p>30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にシュットをしなかったときには合図をする。</p> <p>30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。</p> <p>30秒は次のときに終わる。</p> <p>(1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき</p> <p>(2) 相手チームがボールを保持したとき</p> <p>(3) ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたとき</p> <p>(4) そのほか審判がゲームの中断を命じたとき</p> <p>黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。</p>	<p>第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ</p> <p>第12条 30秒オペレーター</p> <p>30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にシュットをしなかったときには合図をする。</p> <p>30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。</p> <p>30秒は次の時に終わる <u>(30秒をリセットする)</u></p> <p>(1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき <u>(シュットされたボールがリングに触れたとき)</u></p> <p>(2) 相手チームがボールを保持したとき</p> <p>(3) <u>ボールを保持しているチームの相手チームのファウルやヴァイオレイション（アウト・オブ・バウンズを除く）があったとき</u></p> <p>(4) <u>ボールを保持しているチームの相手チームに原因のある理由でゲームが止まったとき</u></p> <p>(5) <u>審判がどちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたとき</u></p> <p><u>30秒が継続されるとき（30秒をリセットしない）</u></p> <p><u>次のことが起こった結果、それまでボールを保持していたチームに引き続きスロー・インのボールが与えられるときは、30秒を止めるがリセットしない</u></p> <p>(1) <u>ボールがアウト・オブ・バウンズとなったとき</u></p> <p>(2) <u>ボールを保持しているチームのプレイヤーの負傷などで審判がゲームを止めたとき</u></p> <p>(3) <u>ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき</u></p> <p>(4) <u>ダブルファウルが宣せられたとき</u></p>

黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。

現 行 条 文

改 定 条 文

第6章 プレイの規定

第6章 プレイの規定

第37条 30秒ルール

第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にショットをしなければならない。

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にショットをしなければならない。

30秒たってもショットをしないときはヴァイオレーションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

30秒たってもショットをしないときはヴァイオレーションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

もし、30秒たたないうちにボールがアウトになり、再びそのチームにアウトでボールが与えられるときには、あらたに30秒をかぞえる。

注解

注解

第37条 ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき

第37条 ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき

- (1) ボールがバスケットに入ったときは、得点が認められる。
- (2) ボールがリングに触れたときは、ボールがバスケットに入らなくてもゲームはそのまま続けられる。
- (3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオレーションとなる。30秒のヴァイオレーションを宣したときは、シューターの位置からもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

- (1) ボールがバスケットに入ったときは、得点が認められる。
- (2) ボールがリングに触れたときは、ボールがバスケットに入らなくてもゲームはそのまま続けられる。
- (3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオレーションとなる。30秒のヴァイオレーションを宣したときは、ボールがあったところにもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

ただし、ボールがリングに触れなくとも、リングに触れなかったそのボールを相手チームのプレイヤーが明らかに直接保持することができたと審判が判断した場合は、ヴァイオレーションを宣さずにゲームをそのまま続けてもよい。

ただし、ボールがリングに触れなくとも、リングに触れなかったそのボールを相手チームのプレイヤーが明らかに直接保持することができたと審判が判断した場合は、ヴァイオレーションを宣さずにゲームをそのまま続けてもよい。

ゴール・テンディングおよびインターフェアの規定は、30秒の合図が鳴ったあとでもすべて適用される。

ゴール・テンディングおよびインターフェアの規定は、30秒の合図が鳴ったあとでもすべて適用される。

現 行 条 文

第7章 規則違反と罰則

第40条 スロー・インの方法

ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内のプレイヤーに向かってボールを投げなければならない。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上方またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。

これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。

ファウル、ジャンプ・ボールが宣せられたあとのスロー・インとフロント・コートのアウトからスロー・インが行われるときは、審判はスロー・インするプレイヤーにボールを手渡すかトスまたはバウンス・パスで与えるかする。

相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。

改 定 条 文

第7章 規則違反と罰則

第40条 スロー・インの位置と方法

ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、スロー・インするプレイヤーが審判に指示された位置にいる場合は、トスまたはバウンス・パスで投げ与えてもよい。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内にボールを投げなければならない。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上方またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。

(4) スロー・インのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1 mを超えて移動すること。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。ただし、ライン沿いに移動する幅が1 mを超えた場合は、ヴァイオレイションとなる。

これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。

相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。